

北アイルランドから

# ロベルタ・バシックさんが来日

——大島博光記念館のアルピジェラの調査・研究のため

今年はチリのアジェンデ社会主義政権が軍事クーデターで倒されて40周年になります。チリ出身の人権活動家ロベルタ・バシックさん（北アイルランド在住）が当記念館所蔵のアルピジェラを調査研究するために2月に来日します。バシックさんは世界各地で精力的にアルピジェラ展を開き、ピノチェトの軍事政権のもとでチリの女性たちが綴った苦難の体験、日常生活、抵抗の意志を伝え続けてきました。2010年10月に大阪で開かれたアルピジェラ運動を紹介する展覧会（酒井朋子先生が企画）にゲスト・キュレーターとして参加しています。

今回の調査をもとに作品を国際的な展示活動に活用していきたいと語っています。せっかくの機会であり、松代に滞在中の2月16日にアルピジェラの講義をしていただくことになりました（酒井朋子先生が通訳）。ぜひご参加ください。

テーマ：「チリのキルト＝アルピジェラと詩」

講師：ロベルタ・バシックさん

とき：2月16日（土）16:00 大島博光記念館

\* 18:30より歓迎交流会を開きます。

アルピジェラとは

arpilleraはパッチワークの手法で作られたチリの壁掛け。1970年代のピノチェト軍事政権下、ポブラシオン（低所得者層の居住地区）の女性たちや行方不明者の家族の会の女性たちは共同作業所を設立して協同でアルピジェラを制作しました。生計の足しにするとともに、アルピジェラに自分たちの生活の様子や政治的主張を描くことで軍による言論抑圧をはねのけ、民主主義と連帯にもとづく人間関係を再建してきました。抑圧された状況にあっても、自分達が築いている生活や連帯の姿をあざやかな色で描いています。そこにはポブラシオンの家とアンデスの山並みがあり、太陽が輝き、畑には種子がまかれ、人々は働き交流しています。



「アルピジェラの共同作業所」

チリの女性たちはアルピジェラを拓げることによってチリの実態を国内外に伝える活動をおこないました。当記念館に保管されている80枚余りのアルピジェラも、この運動の一環として日本（チリ人民連帯日本委員会）に送られてきたものです。

お問い合わせ：TEL&FAX 026-278-1004 大島博光記念館  
メール sonoko28@dia.janis.or.jp 長野市松代町清野2567-1